

ゴールド・ファンド (為替ヘッジあり)

運用報告書(全体版)

第5期(決算日 2022年7月8日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。
「ゴールド・ファンド(為替ヘッジあり)」は、2022年7月8日に第5期の決算を行ないましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。
今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/内外/その他資産(商品)	
信託期間	2017年7月31日から2027年7月8日までです。	
運用方針	主として、「ゴールド・マザーファンド」受益証券に投資を行ない、信託財産の成長をめざして運用を行ないます。	
主要運用対象	ゴールド・ファンド(為替ヘッジあり)	「ゴールド・マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	ゴールド・マザーファンド	金地金価格への連動をめざす上場投資信託証券を主要投資対象とします。
組入制限	ゴールド・ファンド(為替ヘッジあり)	株式への実質投資割合は、信託財産の総額の10%以下とします。 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。
	ゴールド・マザーファンド	株式への投資割合は、信託財産の総額の10%以下とします。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。	

<643705>

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター 電話番号: 0120-25-1404
午前9時~午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○設定以来の運用実績

決算期	基準価額			金地金価格 (円ヘッジベース)		投資信託 組入比率	純資産 総額
	(分配落)	税込 分配	み 期騰落 中率	(参考指数)	騰落 中率		
(設定日)	円	円	%		%	%	百万円
2017年7月31日	10,000	—	—	100.00	—	—	10
1期(2018年7月9日)	9,593	0	△ 4.1	97.33	△ 2.7	107.9	5,898
2期(2019年7月8日)	10,269	0	7.0	106.00	8.9	99.3	5,555
3期(2020年7月8日)	12,799	0	24.6	133.95	26.4	100.2	6,474
4期(2021年7月8日)	12,639	0	△ 1.3	134.15	0.2	99.8	9,549
5期(2022年7月8日)	12,038	0	△ 4.8	128.46	△ 4.2	99.4	8,950

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

(注) 「金地金価格（円ヘッジベース）」とは、前日のニューヨークの金地金価格を対円でヘッジし、円/アメリカドルレート（対顧客電貨売買相場の仲値）で円換算したものです。なお、設定時を100として2022年7月8日現在知りえた情報に基づいて指数化していません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		金地金価格 (円ヘッジベース)		投資信託 組入比率
	騰落	率	(参考指数)	騰落率	
(期首)	円	%		%	%
2021年7月8日	12,639	—	134.15	—	99.8
7月末	12,813	1.4	136.01	1.4	99.4
8月末	12,667	0.2	134.64	0.4	99.5
9月末	12,064	△4.5	128.30	△4.4	101.6
10月末	12,565	△0.6	133.70	△0.3	98.9
11月末	12,454	△1.5	132.49	△1.2	99.0
12月末	12,580	△0.5	134.11	△0.0	100.3
2022年1月末	12,458	△1.4	132.74	△1.1	101.0
2月末	13,168	4.2	140.43	4.7	99.5
3月末	13,431	6.3	143.54	7.0	100.6
4月末	13,096	3.6	139.75	4.2	99.2
5月末	12,851	1.7	137.28	2.3	99.9
6月末	12,578	△0.5	134.32	0.1	99.8
(期末)					
2022年7月8日	12,038	△4.8	128.46	△4.2	99.4

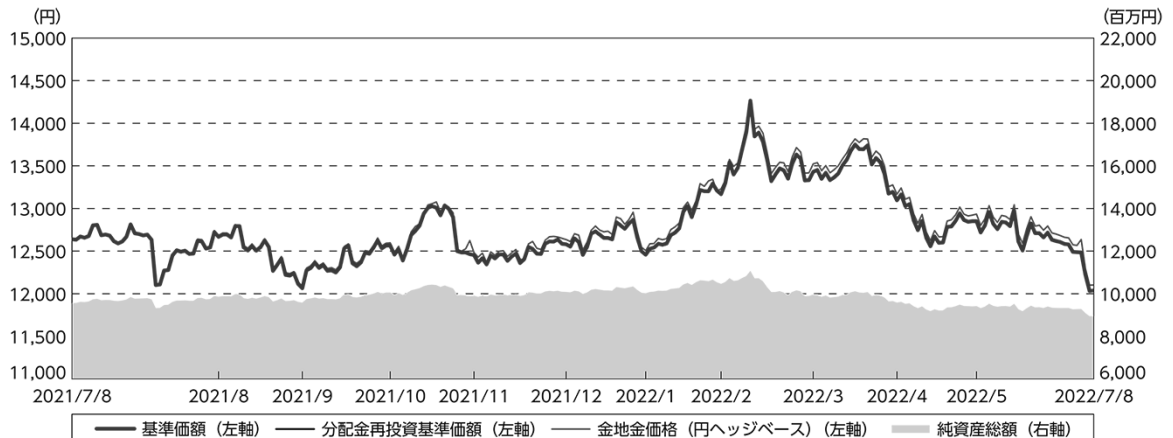
(注) 騰落率は期首比です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しております。

○運用経過

（2021年7月9日～2022年7月8日）

期中の基準価額等の推移



期 首：12,639円

期 末：12,038円（既払分配金（税込み）：0円）

騰落率： △4.8%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額および金地金価格（円ヘッジベース）は、期首（2021年7月8日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 金地金価格（円ヘッジベース）は当ファンドの参考指数です。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、日本を含む世界の金融商品取引所に上場されている投資信託証券であって、金地金価格への連動をめざす投資信託証券に実質的に投資を行ない、信託財産の成長をめざして運用を行なっております。実質外貨建資産については、為替変動リスクの低減を図るため、原則として為替ヘッジを行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・インフレリスクを回避するために金を買う動きが先行したこと。
- ・ウクライナ情勢の緊迫化などの地政学的リスクが警戒されたこと。

＜値下がり要因＞

- ・米国や欧州の長期金利が上昇し、金利のつかない金の相対的な投資魅力が低下したこと。
- ・アメリカドルが主要通貨に対して上昇したこと。

投資環境

（金市況）

期間中の金地金市場では、アメリカドルベースの金価格は期間の初めと比べて下落しました。

期間の初めから2022年3月上旬にかけては、アメリカドルがユーロやイギリスポンドなどの主要通貨に対して上昇したことや、米国連邦準備制度理事会（FRB）による金融政策の早期正常化観測が強まったことなどが金価格の重しとなったものの、原油価格の上昇などを受けた世界的なインフレ懸念を背景にインフレリスクを回避するために金を買う動きが先行したことや、ウクライナ情勢の緊迫化などの地政学的リスクに対する警戒感から相対的に安全資産とされる金を買う動きが優勢となり、金価格は上昇しました。3月中旬から期間末にかけては、ウクライナ情勢を背景とした安全資産としての金に対する需要の増加などが金価格支援材料となったものの、FRBによる政策金利の引き上げや主要国の中央銀行による金融引き締め強化を受けて米国や欧州の長期金利が上昇し、金利のつかない金の相対的な投資魅力が低下したことや、アメリカドルが主要通貨に対して上昇したことなどを背景に、金価格は下落しました。

当ファンドのポートフォリオ

（当ファンド）

当ファンドは、「ゴールド・マザーファンド」受益証券を高位に組み入れて運用を行ないました。実質外貨建資産については、為替変動リスクの低減を図るため、原則として対円での為替ヘッジを行ないました。

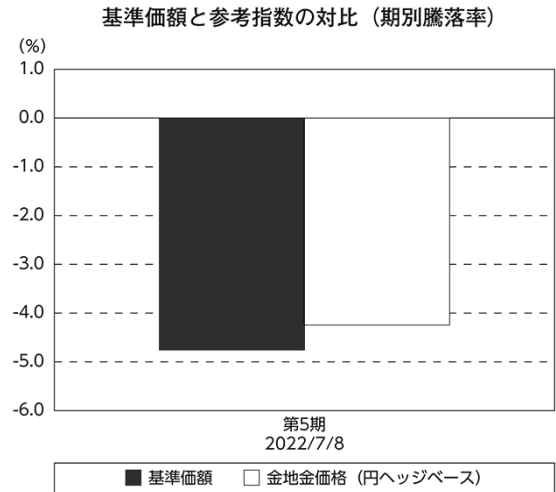
（ゴールド・マザーファンド）

主として、日本を含む世界の金融商品取引所に上場されている投資信託証券であって、金地金価格への連動をめざす投資信託証券に投資を行ない、信託財産の成長をめざして運用を行ないました。原則として、随時ポートフォリオの見直しを行ない、投資信託証券の組入比率を高位に維持しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

グラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) 金地金価格（円ヘッジベース）は当ファンドの参考指数です。

分配金

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第5期
	2021年7月9日～ 2022年7月8日
当期分配金 (対基準価額比率)	— —%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,161

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

（当ファンド）

引き続き、ファンドの基本方針に則り、「ゴールド・マザーファンド」受益証券を原則として高位に組み入れて運用を行ないます。実質外貨建資産については、為替変動リスクの低減を図るため、原則として為替ヘッジを行ないます。

（ゴールド・マザーファンド）

引き続き、原則として、ベンチマークである「金地金価格（円ベース）」に連動する投資成果をめざして、金地金価格への連動をめざす上場投資信託証券に投資を行ない、組入比率を高位に維持する方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○ 1 万口当たりの費用明細

（2021年7月9日～2022年7月8日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	円 52 (24) (24) (4)	% 0.407 (0.187) (0.187) (0.033)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料 (投 資 信 託 証 券)	1 (1)	0.005 (0.005)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有 価 証 券 取 引 税 (投 資 信 託 証 券)	0 (0)	0.000 (0.000)	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (監 査 費 用) (印 刷 費 用)	5 (1) (1) (3)	0.042 (0.011) (0.004) (0.027)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
合 計	58	0.454	
期中の平均基準価額は、12,727円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

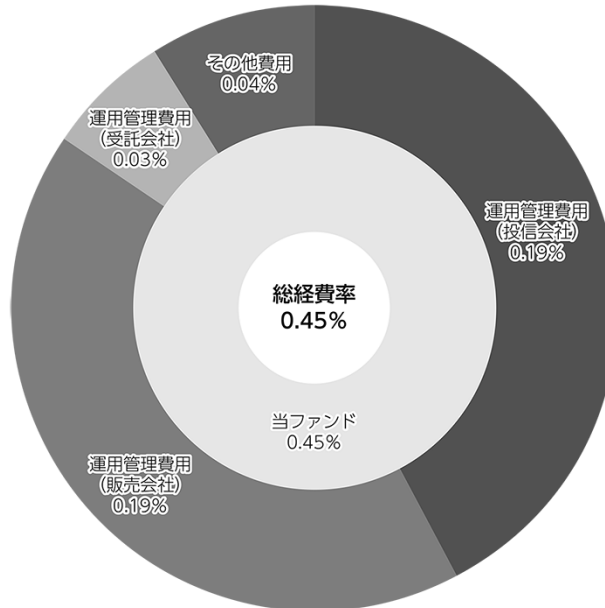
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.45%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2021年7月9日～2022年7月8日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘	柄	設 定		解 約	
		口 数	金 額	口 数	金 額
		千口	千円	千口	千円
ゴールド・マザーファンド		1,031,246	1,370,355	2,630,609	3,848,629

○利害関係人との取引状況等

(2021年7月9日～2022年7月8日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2021年7月9日～2022年7月8日)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2021年7月9日～2022年7月8日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2022年7月8日現在)

親投資信託残高

銘	柄	期首(前期末)	当 期 末	
		口 数	口 数	評 価 額
		千口	千口	千円
ゴールド・マザーファンド		7,543,805	5,944,442	8,897,047

(注) 親投資信託の2022年7月8日現在の受益権総口数は、96,281,607千口です。

○投資信託財産の構成

(2022年7月8日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ゴールド・マザーファンド	8,897,047	99.0
コール・ローン等、その他	92,107	1.0
投資信託財産総額	8,989,154	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

(注) ゴールド・マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産（144,051,039千円）の投資信託財産総額（144,219,044千円）に対する比率は99.9%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1アメリカドル=136.06円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2022年7月8日現在）

○損益の状況（2021年7月9日～2022年7月8日）

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	18,005,075,799
コール・ローン等	81,511,296
ゴールド・マザーファンド(評価額)	8,897,047,145
未収入金	9,026,517,358
(B) 負債	9,054,765,527
未払金	9,015,921,205
未払解約金	16,351,719
未払信託報酬	19,624,935
未払利息	9
その他未払費用	2,867,659
(C) 純資産総額(A-B)	8,950,310,272
元本	7,435,295,877
次期繰越損益金	1,515,014,395
(D) 受益権総口数	7,435,295,877口
1万口当たり基準価額(C/D)	12,038円

(注) 当ファンドの期首元本額は7,555,522,965円、期中追加設定元本額は2,314,581,026円、期中一部解約元本額は2,434,808,114円です。

(注) 1口当たり純資産額は1.2038円です。

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 8,433
受取利息	32
支払利息	△ 8,465
(B) 有価証券売買損益	△ 437,691,819
売買益	2,119,957,944
売買損	△2,557,649,763
(C) 信託報酬等	△ 43,318,007
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 481,018,259
(E) 前期繰越損益金	282,209,205
(F) 追加信託差損益金	1,713,823,449
(配当等相当額)	(1,172,238,248)
(売買損益相当額)	(541,585,201)
(G) 計(D+E+F)	1,515,014,395
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	1,515,014,395
追加信託差損益金	1,713,823,449
(配当等相当額)	(1,172,238,228)
(売買損益相当額)	(541,585,221)
分配準備積立金	434,686,049
繰越損益金	△ 633,495,103

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 分配金の計算過程(2021年7月9日～2022年7月8日)は以下の通りです。

項 目	2021年7月9日～ 2022年7月8日
a. 配当等収益(経費控除後)	0円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	0円
c. 信託約款に定める収益調整金	1,172,238,228円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	434,686,049円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	1,606,924,277円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	2,161円
g. 分配金	0円

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上処理しています。

○分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金（税込み）	0円
-----------------	----

○お知らせ

約款変更について

2021年7月9日から2022年7月8日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの主要投資対象先の直近の運用状況について、法令および諸規則に基づき、次ページ以降にご報告申し上げます。

ゴールド・マザーファンド

運用報告書

第9期（決算日 2022年3月8日）
（2021年3月9日～2022年3月8日）

当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	2013年3月25日から原則無期限です。
運用方針	主に金地金価格への連動をめざす上場投資信託証券に投資を行ない、信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要運用対象	金地金価格への連動をめざす上場投資信託証券を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資割合は、信託財産の総額の10%以下とします。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。

ファンド概要

主として、日本を含む世界の金融商品取引所に上場されている投資信託証券であって、金地金価格への連動をめざす投資信託証券に投資を行ない、信託財産の成長をめざして運用を行ないます。なお、ファンドの状況や投資環境に応じて、金地金価格への連動をめざすために、金先物価格への連動をめざす上場投資信託証券や上場投資信託証券以外の有価証券に投資を行なう場合があります。

ただし、市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準となったときなどやむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。

日興アセットマネジメント

<637068>

【運用報告書の表記について】

・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額		金地金価格 (円ベース)		投資信託 証券率 組入比率	純資産額
	円	騰落率	(ベンチマーク)	騰落率		
5期(2018年3月8日)	9,010	1.1	92.12	1.4	100.8	78,688
6期(2019年3月8日)	9,150	1.6	94.10	2.2	100.1	134,101
7期(2020年3月9日)	10,863	18.7	112.89	20.0	100.0	103,203
8期(2021年3月8日)	11,665	7.4	120.77	7.0	106.0	138,951
9期(2022年3月8日)	14,579	25.0	151.21	25.2	99.9	158,719

(注)「金地金価格 (円ベース)」とは、前日のニューヨークの金地金価格を円/アメリカドルレート (対顧客電信売買相場の仲値) で円換算したものです。なお、設定時を100として2022年3月8日現在知りえた情報に基づいて指数化しています。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		金地金価格 (円ベース)		投資信託 証券率 組入比率
	円	騰落率	(ベンチマーク)	騰落率	
(期首) 2021年3月8日	11,665	—	120.77	—	106.0
3月末	11,802	1.2	122.20	1.2	100.0
4月末	12,251	5.0	126.81	5.0	99.8
5月末	13,240	13.5	137.12	13.5	99.9
6月末	12,337	5.8	127.76	5.8	100.0
7月末	12,687	8.8	131.34	8.8	100.0
8月末	12,599	8.0	130.52	8.1	100.0
9月末	12,229	4.8	126.68	4.9	100.0
10月末	12,938	10.9	134.09	11.0	99.9
11月末	12,843	10.1	133.01	10.1	100.0
12月末	13,134	12.6	136.17	12.8	100.0
2022年1月末	13,067	12.0	135.31	12.0	100.0
2月末	13,820	18.5	143.36	18.7	100.0
(期末) 2022年3月8日	14,579	25.0	151.21	25.2	99.9

(注) 騰落率は期首比です。

○運用経過

(2021年3月9日～2022年3月8日)

基準価額の推移

期間の初め11,665円の基準価額は、期間末に14,579円となり、騰落率は+25.0%となりました。

基準価額の変動要因

期間中、基準価額に影響した主な要因は以下の通りです。

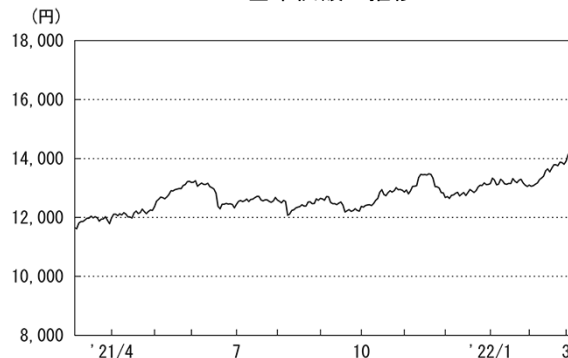
<値上がり要因>

- ・新型コロナウイルスの変異株の感染拡大やウクライナ情勢の緊迫化などから投資家のリスク回避姿勢が強まり、安全資産とみなされる金への投資の相対的の魅力が高まったこと。
- ・原油価格の上昇などを受けて世界的にインフレが懸念されたこと。
- ・円安／アメリカドル高となったこと。

<値下がり要因>

- ・主要中央銀行による政策金利の引き上げや、政策金利の引き上げに向けた金融政策の転換への示唆などを背景に、世界的に長期金利が上昇したこと。
- ・アメリカドルが主要通貨に対して上昇したこと。

基準価額の推移



期 首	期中高値	期中安値	期 末
2021/03/08	2022/03/08	2021/03/09	2022/03/08
11,665円	14,579円	11,631円	14,579円

（金市況）

期間中の金地金市場では、アメリカドルベースの金価格は期間の初めと比べて上昇しました。

期間の初めから2021年5月下旬にかけては、アメリカドルが主要通貨に対して下落し、アメリカドルの代替投資先とされる金の相対的の魅力が高まったことなどを受けて、金価格は上昇しました。6月上旬から9月下旬にかけては、新型コロナウイルスの変異株の感染拡大などを受けて世界景気の先行き不透明感が強まり、リスク回避のための金の投資妙味が高まったことなどが金価格の上昇要因となったものの、米国連邦公開市場委員会（FOMC）において米国連邦準備制度理事会（FRB）が市場の予想よりも早い時期に利上げを実施する可能性が示唆されたことや、アメリカドルが主要通貨に対して上昇したことなどを受けて、金価格は下落しました。10月上旬から期間末にかけては、主要中央銀行による政策金利の引き上げや政策金利の引き上げに向けた金融政策の転換への示唆などを背景として世界的に長期金利が上昇し、金利のつかない金の投資妙味が薄れたことなどが金価格の重しとなったものの、原油価格の上昇などを受けた世界的なインフレ懸念を背景にインフレリスクを回避するために金を買う動きが先行したことや、ウクライナ情勢の緊迫化などの地政学的リスクに対する警戒感から相対的に安全資産とされる金を買う動きが優勢となり、金価格は上昇しました。

（為替市況）

期間中におけるアメリカドル（対円）は、右記の推移となりました。



ポートフォリオ

主として、日本を含む世界の金融商品取引所に上場されている投資信託証券であって、金地金価格への連動をめざす投資信託証券に投資を行ない、信託財産の成長をめざして運用を行ないました。原則として、随時ポートフォリオの見直しを行ない、投資信託証券の組入比率を高位に維持しました。なお、外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行わず、高位の外貨エクスポージャーを維持しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

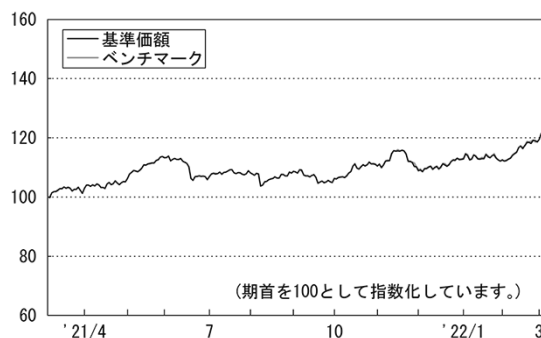
期間中における基準価額は、25.0%の値上がりとなり、ベンチマークである「金地金価格（円ベース）」の上昇率25.2%を概ね0.2%下回りました。

ベンチマークとの差異における主な要因は以下の通りです。

<マイナス要因>

- ・投資対象先における投資信託の信託報酬などの諸費用が影響したこと。
- ・海外カストディ・フィー、売買手数料、取引税などの諸費用が影響したこと。

基準価額とベンチマーク（指数化）の推移



○今後の運用方針

引き続き、原則として、ベンチマークである「金地金価格（円ベース）」に連動する投資成果をめざして、金地金価格への連動をめざす投資信託証券に投資を行ない、組入比率を高位に維持する方針です。また、外貨建資産は、原則として為替ヘッジを行わず、高位の外貨エクスポージャーを維持する方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

○1万口当たりの費用明細

(2021年3月9日～2022年3月8日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (投 資 信 託 証 券)	円 1 (1)	% 0.005 (0.005)	(a)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 (投 資 信 託 証 券)	0 (0)	0.000 (0.000)	(b)有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 (保 管 費 用)	1 (1)	0.010 (0.010)	(c)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
合 計	2	0.015	
期中の平均基準価額は、12,745円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2021年3月9日～2022年3月8日)

投資信託証券

銘 柄	買 付		売 付		
	口 数	金 額	口 数	金 額	
外 国	アメリカ	千口	千口	千口	千アメリカドル
	ISHARES GOLD TRUST-ETF	— (△29,975)	— (—)	5,350	186,596
	SPDR GOLD TRUST-ETF	758	125,573	1,176	201,397
小 計	SPDR GOLD MINISHARES TRUST-ETF	3,000 (△ 9,300)	52,966 (—)	—	—
		3,758 (△39,275)	178,540 (—)	6,526	387,994

(注) 金額は受け渡し代金。

(注) () 内は分割・償還等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

○利害関係人との取引状況等

(2021年3月9日～2022年3月8日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業又は商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2021年3月9日～2022年3月8日)

該当事項はございません。また委託会社に売買委託手数料は支払われておりません。

○組入資産の明細

(2022年3月8日現在)

外国投資信託証券

銘柄	期首(前期末)		当 期 末		比 率	
	口 数	口 数	評 価 額			
			外貨建金額	邦貨換算金額		
(アメリカ)	千口	千口	千アメリカドル	千円	%	
ISHARES GOLD TRUST-ETF	59,950	24,625	934,518	107,927,570	68.0	
SPDR GOLD TRUST-ETF	791	373	69,624	8,040,891	5.1	
SPDR GOLD MINISHARES TRUST-ETF	15,600	9,300	369,024	42,618,581	26.9	
合 計	口 数 ・ 金 額	76,341	34,298	1,373,166	158,587,043	
	銘柄 数 < 比 率 >	3	3	—	< 99.9% >	

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

○投資信託財産の構成

(2022年3月8日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
投資信託受益証券	千円	%
	158,587,043	98.5
コール・ローン等、その他	2,424,861	1.5
投資信託財産総額	161,011,904	100.0

(注) 比率は、投資信託財産総額に対する割合です。

(注) 当期末における外貨建純資産 (158,758,028千円) の投資信託財産総額 (161,011,904千円) に対する比率は98.6%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1アメリカドル=115.49円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2022年3月8日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	161,177,899,453
コール・ローン等	2,328,009,075
投資信託受益証券(評価額)	158,587,043,548
未収入金	262,846,830
(B) 負債	2,458,880,969
未払金	166,299,750
未払解約金	2,292,581,077
未払利息	142
(C) 純資産総額(A-B)	158,719,018,484
元本	108,866,576,990
次期繰越損益金	49,852,441,494
(D) 受益権総口数	108,866,576,990口
1万口当たり基準価額(C/D)	14,579円

(注) 当ファンドの期首元本額は119,117,616,680円、期中追加設定元本額は26,385,343,942円、期中一部解約元本額は36,636,383,632円です。

(注) 2022年3月8日現在の元本の内訳は以下の通りです。

・スマート・ファイブ (毎月決算型)	39,139,678,820円
・ゴールド・ファンド 為替ヘッジあり (SMA専用)	33,835,995,247円
・ゴールド・ファンド (為替ヘッジあり)	7,388,907,411円
・ゴールド・ファンド (為替ヘッジなし)	6,690,056,249円
・スマート・ファイブ (1年決算型)	6,629,136,562円
・ファイン・ブレンド (毎月分配型)	5,188,056,811円
・ゴールド・ファンド (適格機関投資家向け)	4,847,091,895円
・ファイン・ブレンド (資産成長型)	2,843,379,933円
・FOFs用ゴールド・ファンド 為替ヘッジあり (適格機関投資家専用)	2,256,493,146円
・ファイン・ブレンド (適格機関投資家向け)	47,780,916円

(注) 1口当たり純資産額は1.4579円です。

上記各資産の評価基準及び評価方法、また収益及び費用の計上区分等については、法律及び諸規則に基づき、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して評価計上処理しています。

○お知らせ

約款変更について

2021年3月9日から2022年3月8日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

○損益の状況 (2021年3月9日～2022年3月8日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 27,000
受取利息	7
支払利息	△ 27,007
(B) 有価証券売買損益	34,985,308,950
売買益	34,987,360,222
売買損	△ 2,051,272
(C) 保管費用等	△ 16,064,143
(D) 当期損益金(A+B+C)	34,969,217,807
(E) 前期繰越損益金	19,833,644,552
(F) 追加信託差損益金	6,050,062,408
(G) 解約差損益金	△11,000,483,273
(H) 計(D+E+F+G)	49,852,441,494
次期繰越損益金(H)	49,852,441,494

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。